

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成26年度 第1回 歯学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日時 平成26年4月18日(金) 10:30~12:30
場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 神原委員長、佐藤委員、花田委員、奥村委員、藤井委員
(事務局 井端事務局長、平田職員)

I. 検討事項

今年度は、教育の質的転換に向けた教育改善を促進するため、歯学分野における課題について研究することにしており、今回は、前回委員会に引き続き研究課題について以下のような意見交換を通じて確定した。

1. 歯学分野における研究課題について

歯学分野における研究課題について前回の委員会で掲げていた「世界基準の医療に対応した歯学教育の世界基準カリキュラムの提案」と「臨床と知識教育のPBL型統合学修のモデルの提案と実験」について、さらに意見交換を行った。

- ・「世界基準の医療に対応した歯学教育の世界基準カリキュラムの提案」のテーマは、国家試験の問題まで関わってくるため、本協会としては課題が大きすぎる。
- ・グローバルスタンダードは成長戦略として重要であるが、これを基本的に改革していくには、大学教員の意識改革が必要となり、これは問題の規模が大きい。一方で、医療という視点から見ると日本の現状は危機的状況であるので医療の立場から改革を考えるべき。
- ・資格試験に偏重している教育の改革のために、国・大学等の関係者が議論していく場を作り、問題認識を深めるための支援であれば本協会でも可能と思われる。
- ・一方で、教育内容の充実を検討していくべきで、前回委員会で検討した「臨床と知識教育のPBL型統合学修のモデルの提案と実験」など、歯学ではPBLによる知識と臨床の統合、電子カルテの利用に関する研究はよいのではないか。
- ・歯学分野のアクティブ・ラーニングとして、大阪歯科大学(神原委員長の試み)では、高齢者の口腔予防の授業で、高齢者施設に協力してもらい、3年生を送りこんで現場体験をすることで、学びへの態度、意識向上につながった。初年次では知識がなく効果が得られないので、ある程度の知識を積んでから行ったほうがよい。
高齢者の口腔状態やケアの説明を神原委員長が学生や施設職員に行ったが、実体験を踏まえて効果的な教育ができた。
このような授業を反転学習を導入して実施すると効果的であるが、実施には100万円程度かかる。
- ・世界基準を目指した教育に改革していくため、大学関係者や学会で議論できる研究グループを立ち上げる必要がある。
そのためには、学会等で問題認識をしてもらえるような活動を行うべき。

- ・電子カルテを活用したPBL教育として、慶應義塾大学の事例については、6年ほど前に構築したシステムの現時点で利用しているシステムとどのような違いがあるのか。前のものを継続しているのか、紙ベースで利用しているのか、システムに書き込める仕組みはどうしているのか、病院のデータをどう学生用に加工して使っているのかなどが知りたい。
- ・電子化されていなくても、学生に自分で検査データを読み、カルテに書き、議論することの能力が欠けており、教育が必要と感じている。
- ・委員会がアドバイザーの立場で何か授業実験をしてはどうか。
- ・国の補助金「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」では教育の質的展開に取り組む大学への財政支援として、平成29年度まで実施しているので、改革の費用に充てられるのではないのか。
- ・授業実験については、慶應義塾大学など医学での事例を参考にするのか、または、システムは進んでいなくても歯学での現状からのビルドアップを検討するのか。
- ・技術教育はICTに載せるのは難しいのではないのか。

以上の意見交換を踏まえて、本委員会では今年度の課題を以下の二つとすることに決定した。

1. 世界基準を目指した教育について

① 問題認識の共有

日本歯科医学教育学会大会で世界基準を目指して歯科医学教育への変換をどう考えるのかについて、問題提起を行う。

② 世界基準を目指した歯科医学教育のモデル授業の検討

歯学教育の各専門分野における世界基準を目指したモデル授業について各委員が案を作成し、委員会で検討し、可能であれば実験まで行う。

2. 歯学教育におけるアクティブ・ラーニングについて

2. 次回委員会

次回委員会は、7月25日（金）14:00より開催し、7月4日に実施した日本歯科医学教育学会大会での発表報告および、歯学教育の各専門分野における世界基準を目指したモデル授業の確認、今後の課題について検討することにした。

そのため、日本歯科医学教育学会大会での発表申込や発表準備を行い、次回委員会までに歯学教育の各専門分野の立場からみた世界に通用する授業モデル案を各委員が作成することを課題とした。また、高齢者の口腔予防の授業を題材にした、歯学教育におけるアクティブ・ラーニングの授業モデル案を反転学習なども含め、委員長が作成することにした。